

# 野菜の消費動向と品種の紹介

雪印種苗株式会社

技術顧問

餘 助 良 二

わが国の野菜生産は昭和40年以降目覚ましく発展していて、最近では多品目の生産や周年にわたって栽培されるなど、消費者のニーズに対応した野菜の生産が進められています。

しかし、近年はカボチャ、グリーンアスパラガスなど多くの野菜が端境期を中心に諸外国からの輸入野菜は増加の傾向にあることと、消費の面では健康重視、栄養、安全性、おいしさなど少量、多品目にわたって周年求めるようになっています。

さらに、野菜の生産においては、水田農業確立対策事業や輸入農産物の拡大などで、畑作物では作付指標に基づいた自主的な計画生産を実施するなど、これらの影響もあって野菜づくりの環境は楽観を許さない状況下にあります。

このような環境の中においても、高品質の野菜を生産し、品質の良いものを出荷すれば有利な販売ができますので、产地においては生産体制を早急に確立して、量から質への転換を図る必要があります。

表1 野菜の需給状況（全国）

年度	国内生産量 千t	輸入量 千t	輸出量 千t	国内消費仕向量		1人当たり供給量 (粗食料) (純食料)
				千t	kg	
40	13,490	42	16	13,516	124.4	108.2
45	15,131	98	12	15,217	132.0	114.2
50	15,674	230	8	15,896	127.3	109.5
55	16,470	495	1	16,964	127.9	110.3
58	16,200	749	2	16,947	125.4	107.6
59	16,597	933	1	17,529	128.6	110.3
60	16,455	823	1	17,277	126.1	108.3
61	16,793	911	1	17,703	130.5	111.7
62	16,598	1,047	4	17,641	129.4	110.4

資料：農林水産省「食料需給表」による（62年度は速報値）。

## 1 野菜の消費動向

わが国の野菜需給状況は表1のようになっており、国内消費に仕向けられている量は年々わずかながら増加の傾向にあります。

野菜の国内生産量は昭和62年には1,659万8千tで、最近は横ばい傾向になっています。

輸入野菜は年々増加していて、昭和62年には104万7千tに達し著しく増加しています。

国外への輸出野菜は依然と少なく、最近はわずかに増加がみられる程度であります。

1人当たりの供給量は粗食料、純食料とも最近はわずかではありますが減少傾向にあります。

このことは今までのように作れば売れるという時代は過ぎて、近ごろは品質を重視するようになって、消費者が購入する時の荷姿、形、色、味、鮮度など品質の良いものでないと売れない時代になっています。

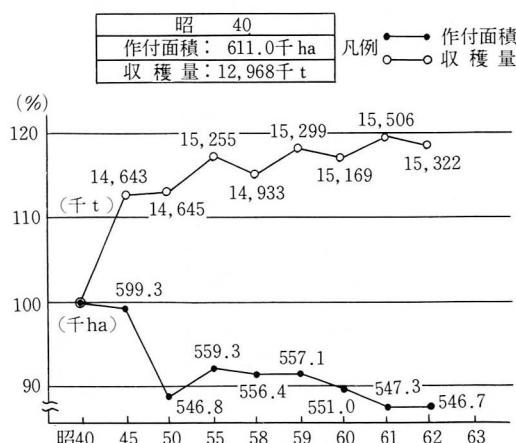


図1 主要野菜の作付面積、収穫量の推移

資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」28 野菜計

## 2 主な野菜の消費動向

最近の消費者が求めている野菜は新鮮で栄養(ビタミン, ミネラル)が豊富で健康に良く、安全性が特に重視されています。

さらに見て美しく、品質も良く、食べておいしく、調理が簡便なものなどを少量で多品目にわたって、しかも、1年中消費されるようになっています。

主な野菜について、最近の消費と栽培の動向についてみますと、トマトはミニトマトの消費が拡大していることとファースト系の品種からフルシリズン完熟トマトへ変わって、糖度、おいしさが重視されています。

キュウリは消費量は増加していませんが、果実の色沢・形状による価格差が見られることからブルームレス台木による栽培が普及しています。

ナスは長ナスの増加、カボチャは完熟でおいしいものが多く出荷されるようになり、輸入のものも増加して周年消費されています。

サヤインゲンは丸莢で莢が細く、曲りがなく、莢色が濃緑で、S規格の消費が伸びています。

スイートコーンはバイカラーの消費が定着、しかし、先端不穏、しなび、食味の伴わない早期出荷のものは嫌われています。

キャベツは軟らかくて、おいしいものが好まれているので、用途に適した品種の選択、栽培法の工夫が必要で、出荷では定数詰が定着しています。

ハクサイは結球内部の黄色のものやオレンジ色のものに関心が高まっていますし、ネギは葉ネギ(小ネギ)、軟白ネギの消費が増加しています。

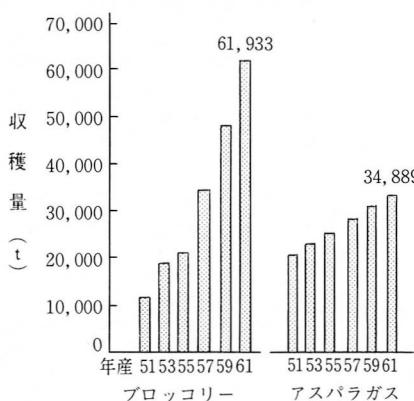


図2 新野菜等の生産状況(資料:農林水産省「野菜生産状況表式調査」による)

ホウレンソウは夏ものの需要が増加していますが、产地、品質による価格差があるので、雨よけ栽培による安定生産と品質の向上を図る必要があります。

ダイコンは夏ダイコンの消費は伸びていますが、病害虫、連作障害による品質のばらつき、黒芯、シミなどによる品質低下と、栽培時期によって根形不良、抽苔などがあります。

ニンジンは栄養面から需要は根強いが、形状、色沢の優劣が価格に現われています。

このほか、最近、作付面積の増加が目立ち消費も増加しているものは、メロン、イチゴ、アスパラガス、ブロッコリー、ミツバ、チンゲンサイ、ハナニラ、ナバナ、タラメ、オクラなどがあります(図2)。

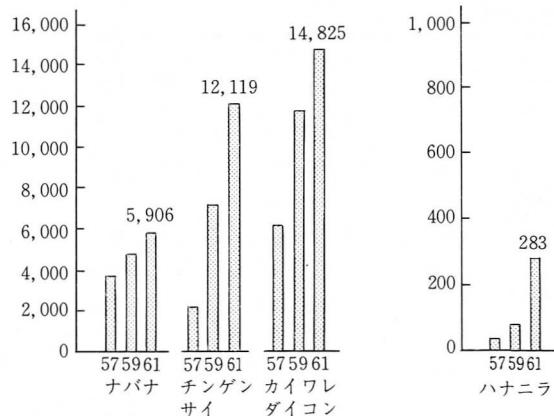
今後、产地においては特産野菜を中心に消費者が求めている高品質の野菜を継続的に安定出荷ができるように生産団地を育成し、さらに、土づくり、栽培法などの改善に努める必要があります。

## 3 野菜品種の紹介

当社では、優れた野菜種子を提供するため、各種野菜の品種改良・開発を進め、各地で適応性試験を行うなどして優良品種を選抜し、寒地、寒冷地、一般地、暖地に適する優れた品種を発売しておりますので、品種の特性をよく理解され、適品種をご利用していただければ幸いです。

### (1) スイートコーン

当社では、甘味種のバイカラー種では「ララミー83」、「ララミー85」、黄色種では「アイダホスイ



ト80」、普通種の白色種では「スノーキーン」などを発売しております。

①「ララミー83」：バイカラーの早生種で熟期が最も早く、しかも、早生種としては雌穂が大きく重く、粒も大きく食味が良いことから早出し用品種として市場性の高い品種です。

②「ララミー85」：バイカラーの早中生種で熟期はピーターコーンよりも2日程度早い。雌穂は大きく重く、草勢は強く倒伏しにくく、先端まで良く子実が入り、粒皮は軟らかい。バイカラーの中では品質も良く、おいしさは抜群で作りやすい品種で、生産団地の基幹品種として使われています。

③「アイダホスィート80」：甘味種の黄色種。極早生種で早出しからやや遅出しまで利用できます。粒列は12~14列で乱れがなく、低温の時でも先端不稔や粒列の乱れの発生がほとんどなく、雌穂の先端まで良く子実が入ります。甘味が強く、食味が優れていることから生食用、軸付冷凍用に最適の品種で広く栽培されています。

## (2) エダマメ

当社育成の「サッポロミドリ」、「キタノスズ」、「美園グリーン」、「ユキムスメ」を発売しております。

さらに、本年「サヤムスメ」が発売予告になりました。

エダマメの種子は昨年採種地の天候が低温、干ばつ、高温、長雨など異常気象が続き目標数量確保が心配されていましたが、採種地を分散するなど全力をあげて採種した結果、良い種子をほぼ計画どおりに供給できるのではないかと思っていますので、今までと同様に雪印育成のエダマメ種子をご使用していただきたいと思います。

「サッポロミドリ」は白毛、極早生、大莢種。「キタノスズ」は白毛で3粒莢の多い早生多収種。「美園グリーン」は白毛で着莢が極めて密な中早生多収種。「ユキムスメ」は白毛、大莢、上物収量の多い中早生種で、食味が極めて良い豊産種です。

本年、発売予告になりました「サヤムスメ」は白毛で「ユキムスメ」と同熟期の中早生種。莢はユキムスメより更に濃い鮮緑色でふっくらとした実入りの大莢。3粒莢の割合が非常に高く、莢のゆで上がりは鮮やかな緑色で特に美しく食味の極め

て優れた品種です。

## (3) サヤインゲン

当社では、高級なサヤインゲン生産を目指し、品種改良を進めています。

特に関西市場向けの新しいタイプの品種として「スノークロップ・ネリナ」を発売していましたが、1昨年からは早期多収の「スノークロップ・リンダ」を発売してまいりました。

本年から新発売した「スノークロップ・さやかざり」は早期多収の早生種です。

この三品種は、いずれもつるなし、丸莢、すじなしであって、莢はスリムで莢色が特に濃緑色であることから市場では非常に高い評価を受けている品種です。

スノークロップ・ネリナは従来から西南暖地、一般地において多く栽培されていましたが、ここ数年、北海道においても多く栽培されるようになり、7~10月にかけて主に関西市場へ向けて、夏どりホウレンソウ、サヤエンドウなどと同様に航空輸送で出荷され良好な成果をあげています。

今後、これらの品種を用いて全国各地において、産地化ができる品目ではないかと思われますので、是非ご検討していただきたいと思います。

## (4) サヤエンドウ

当社育成のつるありサヤエンドウとして「電光絹莢」、「三十日絹莢」、「福姫三十日絹莢」を発売しています。

これらの品種は草勢が強健で、白花、下位節位から着莢する極早生種です。一般地の早春まき、北海道、東北、寒冷地の春播き、初夏~夏まき栽培に適する品種で、品質が良く収量も多く穫れることから、各地で多く栽培されていて、良い成果をあげています。

## (5) ニンジン

北海道、東北地方で主に栽培しているニンジンは、いわゆる春まき夏秋どりの五寸ニンジンで、出荷時期は7~10月になり府県産の端境期になり、北海道では早くから特産野菜として栽培され、機械化、省力栽培が進められています。

最近の品種にはニンジンの形質を揃えることから、F<sub>1</sub>品種を多く利用するようになっています。

当社では、寒冷地に適するF<sub>1</sub>品種の「明紅五寸」

を発売していますが、この品種は根形の揃いが良く、播種後 110~120 日で収穫できる中生種で抽苔性は極めて安定していて、寒地（北海道の空知、上川、十勝、網走地方）の春まき栽培ではほとんど抽苔のしない優れた品種で、しかも品質が良く、輸送性に優れている品種です。

昨年から発売しました品種に「カージナル・フレッシー」、「カージナル・バルーン」があります。

#### ①一代交配 カージナル・フレッシー

ウインナーソーセージタイプの小型円筒型で、ニンジン特有の臭みがなく甘味があることから生野菜、丸ごと調理のできる新しいタイプの品種です。

#### ②一代交配 カージナル・バルーン

大きさがゴルフボールぐらいになる一口丸ニンジンで、生育日数 70~90 日くらい。球型で形の揃いの良いニンジンで、調理、肉料理に適する品種です。

これらの新しいタイプの品種は、今後消費が伸びていくものと期待が持たれています。

### (6) ミニトマト

最近はトマトと言えば、味の良い完熟トマトとミニトマトが消費者に喜ばれています。

当社では、ミニトマト「おちょぼ」を発売しております。

「おちょぼ」は生育旺盛な早生種で低温伸長性に優れ、1 果房に 20~30 の花が着き、果実は 15 g 前後の豊円球型で安定多収のミニトマトで、糖度が高く、味が良く、作りやすく、市場性の高い品種です。

### (7) メロン

メロンは全国的に栽培が盛んになっていますが、北海道、東北では夏においしいメロンが生産できることから年々栽培が盛んになっています。

北海道のメロンは出荷期が 7~9 月になりますが、この時期でも府県産の青肉メロンが多く出回っていることから、今後、更に味の良い赤肉メロンを生産し、消費宣伝していく必要があります。

当社では赤肉露地メロン「トパーズ」を発売しております。この品種は低温伸長性に優れていて、寒地、寒冷地のハウス・トンネル栽培によく適し、作りやすく、肉質は極めて良く、甘味が強く、香

りも良く、食べて非常においしい安定多収の品種です。

### (8) ホウレンソウ

当社では、北海道、東北、寒冷地の晩春~夏まきの品種として「アーガス」、「ジュリアス」、「ジュノス」、加工用品種として「ニューキング」、全国各地の晩夏・秋~早春まきの品種として「あやみどり」を発売しています。

「アーガス」、「ジュリアス」、「ジュノス」は葉が濃緑で品質が良く、抽苔が遅く、生育が早く、収量も多く作りやすい品種なので、北海道、東北、寒冷地などの主要産地で雨よけ栽培の基幹品種として多く栽培されています。生産物は全国各地の主要市場へ出荷され、良い成果があがっています。

このほか、北海道では冷凍加工用、粉末加工用の品種として「アーガス」、「ジュリアス」、それに加工専用種の「ニューキング」が栽培されています。

「あやみどり」は昨年から発売された品種で、葉は浅い欠刻があって、ほぼ同時期に播種するソロモン、リードなどに比べ、生育が旺盛で、しかも早くから収れ、べと病抵抗性で、葉は濃緑で葉数も多く、品質が良く、収量が多いなど、良い特性を持っていますので、全国各地で栽培されている品種です。

### (9) アスパラガス

グリーンアスパラガスは近年、全国的に作付面積が増加して栽培が盛んになっています。

当社では、1 昨年から一代交配「キャンドル」を発売しております。

「キャンドル」は一代交配種で、従来のメリーワシントン 500 W に比べて草勢は旺盛で、定植後早くから収量の上がる品種です。

若茎は太くて揃いが良く、初期収量、上物収量の多いグリーン専用の優れた品種です。

アスパラガスは一度定植すると何年も収穫を続ける永年生作物なので、なるべく栽培する場合に形質の優れている品種を選ぶことが大切です。